そのためには、自身の病院の医療内容を分析し、地域での役割を理解することが重要です。診療報酬点数本を読み込み、取得できる加算はなにか、そして取得するためにはどのような補助に入る必要があるのか、という戦略的な支援を実践することが、新たな役割になると感じました。効率的な医師事務作業補助のマネジメントができるように、これからも積極的に他病院と交流し、学びたいと考えています。今回の講習会で得たものを業務に活かしていけるよう頑張ります。ありがとうございました。

2015年度医療安全分科会感想文

三菱京都病院 看護部師長 医療安全管理者　林 知江美

会場風景

今回初めて医療安全分科会に参加させていただきました。これまでも様々な学会や団体が主催する医療安全に関する研修会に参加してきましたが、マネジメントを主眼に置くというこれまでとは違った視点から医療安全を学ぶ機会になりました。医療安全活動の具体的な手法だけではなく、組織論・経営理論などから病院としてのマネジメントを医療安全が担う可能性を提案されたことが特に印象に残りました。医療安全管理者は、「組織を繋ぎ、動かし、方向を揃える」、「マネジメントをマネジメントする」というメタマネジメントすることが可能な役割にあることの気づきはとても衝撃的でした。

ワークショップでは、医療安全管理活動について組織のSWOT分析やマネジメントツールなど具体的に紹介していただき、その後の多職種でのグループワークでは、課題に対する分析、戦略を立てる作業をしました。このワークショップでは、マネジメント手法を身につけるだけでなく、多職種での討議をすることで情報共有ができ、多様な意見を得たことで次のアイデアを生む機会になることを実感しました。

また、医療安全において最近の話題である医療事故調査制度への対応や現況についてもお話しいただき、「記録の標準化」「他職種シミュレーション」「組織全体としての支援体制」「全死亡症例の把握」など自院における課題が明確になりました。今回の医療安全分科会で多くの学びや気づきを得ることができたことを感謝いたします。

開催報告

支部学術集会

第15回栃木支部学術集会

学術集会会長：社会医療法人博愛会菅間記念病院
理事長　菅間 博

会場風景

2015年10月24日（土）、社会医療法人博愛会菅間記念病院 在宅総合ケアセンター大会議室において、第15回栃木支部学術集会を開催いたしました。『地域包括ケアシステムの構築 ～医療と介護の連携～』をメインテーマに、第１部基調講演、第２部「地域での医療連携をいかに推進するか」と題したパネルディスカッションが行われ、196名のご参加をいただきました。在宅総合ケアセンター２階大会議室のほかに、真下の１階にもサテライト会場を特設し、１階会場のスクリーンや演者を、ネットモニターにて映し出し、２階の会議室と変わりない視聴ができるようにしました。また、そこには18チームが参加したポスターを展示しました。ポスターは参加いただいた医師に投票をお願いし、大会賞１点、・優秀賞２点を選びました。選出が困難なほど全てのポスターが好評でした。

基調講演では、栃木県保健福祉部医事厚生課長から保健福祉部次長を経て、今年度より保健福祉部長に就任された近藤真寿氏より「栃木県における地域包括ケアシステムの現状と展望」と題してお話しいただきました。保健医療計画、介護保険事業計画が同時改訂スタートする平成30年度に向け、医療や介護等に関わる全ての主体が、オール栃木体制で総力を挙げてこの問題に取り組まなければならないと認識しました。2025年問題と言われる高齢化社会に向け、私たちはどの役目を担うのか、長期的な展望が必要であることなど勉強させていただきました。

パネルディスカッションではコーディネーターを栃木県医師会塩原温泉病院院長 森山俊男先生が務めて下さり、那須塩原クリニック在宅診療科長 黒崎史果先生による演題「専門性を持ち寄って大きな巻狩り鍋を」、栃木県社会福祉士会会長 檜山光治氏による演題「地域サービス提供システムのデザイン」、那須町保健セン